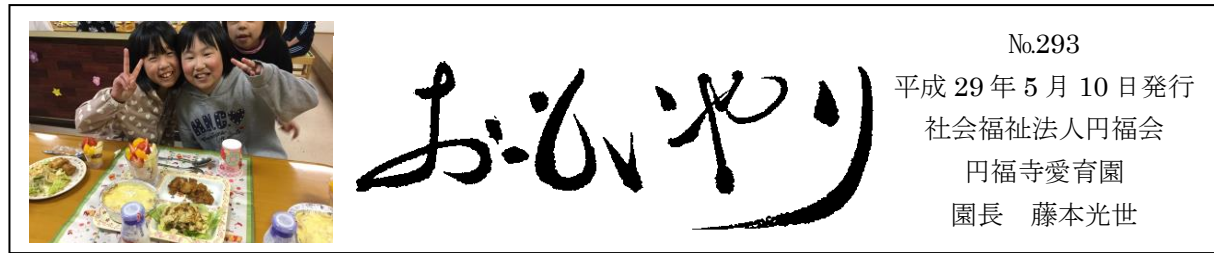


新年度特集号です。4月はお誕生日の子どもが大勢でした。写真は4/2のお誕生日祝です。



太忍館円福道場

園長 藤本光世

円福寺愛育園児童福祉センターの入り口に、初代園長が「太忍館円福道場」と揮毫した大きな看板が掛けられています。昔、体育館を使って柔道教室を開いていた時のものです。柔道場は床にスプリングが入っていないと、痛くて練習にならなかったのか、それとも指導者が続かなかったのか、今は柔道教室はありません。でも大きな看板はそのまま残って私たちの活動を見守っています。

円福寺愛育園の使命は、卒園の時に自立して生活していける力をつけた子どもを育てることです。平成20年度から9年間この仕事にかかわってきて、自立して生活できる子どもを育てるとは、ご縁があって円福寺愛育園に入所したすべての子どもが、運が良くなる生き方をするように育てることが分かってきました。

運が良くなる生き方とはどんな生き方でしょうか。誰もが運がよくなる生き方をしたいのです。子どもたちもそう思っています。ところが運がよくなる生き方をしている人は少ない。だから、もしすべての子どもたちを運がよくなる生き方をするように育てることができれば、それは社会に子育ての道を事実として示し、大きな希望と力を与えるのではないのでしょうか。そうすると、社会の人々全体が子育てに自信を持ち、運がよくなり、幸せになれるでしょう。このことこそ愛育園の児童養育の目的であると思うようになりました。

毎月の早朝参禅会に佐久市から参加してくださっている櫻井功一さまから、宮崎中央新聞を紹介してもらいました。通称『みやちゅう』は週刊で裏表2頁です。その内容はあちこちで開催された講演の記録です。私が読んでこれと思う講演は付箋をつけて職員に回覧します。その中に、西中務氏の「運の良くなる生き方」を見つけました。『圓福5月号』に紹介しましたのでご覧になってください。私はこの本を全職員に読んでもらうことにしました。職員が運の良くなる生き方をしなければ、子どもを運の良くなる生き方に育てることはできません。

運の良くなる生き方はどのようにすればできるのでしょうか。それは、世のため人のために尽くすということです。見返りを求めずに。運の貸方の人生を送ることです。そのためには、朝早く起きることが重要です。朝早く起きることは、大きな価値があります。そして、規則正しい生活をすることが重要です。だらしない生き方では、貸方にはなれません。貸方になるのに無理が生じます。何も思わずに、見返りを求めずに貸方になれなければなりません。無理があっては続きません。だ

からまず、朝早く起きるようにしましょう。朝起きたら、歯を磨いて顔を洗って、笑顔の大きな声であいさつをすれば、それだけで人の心を喜ばせる生き方になるのではないのでしょうか。暗い顔をしていれば運が逃げます。挨拶をもらって返さなければ、なお運が逃げます。好きなことだけをやって嫌いなことはやらないでは、これまた運が逃げます。好きなものを食べて嫌いなものを食べないのも運が逃げます。だってせっかくなさくさんの人のお陰で机に並んだ命を捨てるのですから。もったいないです。悪いことをしたのにごまかしたらどうでしょう。人に迷惑をかけたらどうでしょう。運が逃げていきます。だから、そうさせないように職員は指導します。だから、職員は絶対に運が逃げるようなことをしてはいけません。

実は、上に書いたことは、みんな愛育園の職員が子どもたちを指導していることでした。そして、多くの子どもたちができていることでした。

この本を読んで、運の良くなる生き方は、仏さまに帰依して、教えのとおり生きることでであると気づきました。そのことも書いてありました。愛育園の養育は、仏教の精神を根幹にしていますから、それだけで子どもを運の良くなる生き方に導いているのです。父はきっとこのことを分かっていたのでしょう。70年間続いているおまいりも、お掃除も、ごあいさつも、はきものをそろえることも、食前の言葉も、食後の言葉も、朝のお誓いも夕べの祈りもみんな運の良くなる生き方に結び付いています。

運の良くなる生き方をしている人の周りには、運の良くなる生き方をしている人が集まってきます。逆に運が悪い人には悪い人が集まってきます。運の良くなる生き方をしている人の顔は穏やかで笑顔に満ち、傍にいるだけで楽しくなってきます。愛育園の子どもたちはみんな明るく笑顔が美しく楽しく生きています。愛育園に入所すると、なんと顔つきまで変わって、学校へ行っていなかった子が皆勤賞になります。運の良くなる生き方に入ると、運が良くなる生き方になるのでしょうか。それは、とっても不思議なことです。

このように、円福寺愛育園は職員も子どもたちも運のよくなる生き方を目指す道場です。辞書を見ますと道場とは「道場という言葉は、梵語の bodhi-manda (菩提樹下の金剛座) の訳語で、仏道修行の場を指した。」とあります (Wikipedia)。まさにピッタリではありませんか。これからは、職員と児童が一丸となって、運の良くなる生き方を極めたいと思っています。

平成29年度 副園長方針

副園長 青谷 幸治

今年で、副園長6年目を迎えました。あつという間の5年間でした。施設内が混乱した時期ではありませんでしたが、粘り強く子どもたちと関わり理解を深めてきました。子どもの問題行動の指導は絶えませんでした。どんな理由であれ子どもたちと関わる機会が増え、とても充実していました。少しは、子どもの関わり方や一人一人の子どもの特性を見抜くことができたと思います。何事にも逃げず、子どもたちの全てを受け止め、子ども主体で取り組めたことが現在の子どもたちの落ち着いた様子で証明されました。私の人生観、人間力、仕事に対する向き合い方がこの5年で変わりました。

した。

そして、これからの5年。愛育園がどの方向へ向かっていくのか？愛育園の養育の目的は「児童の自立」です。そのためにも教育的養育施設としての確立とその役割を果たすために地域に進出し、社会に貢献できる児童の養育が必要になると思います。

まずは、愛育園の児童の自立のための継続的支援として大きな夢を持たせ、学力向上につながる生活環境の整備、そして職員自ら子どもたちのお手本となる人間力を高める一年になればと期待しています。子どもたちの成長のカギを握るのは私たち職員です。新たな養育のスタートです。先生方と共にこれからの5年を作り上げていきましょう。今年度もよろしくお祈りします。

◆ 職員実践

- *自ら進んで、大きな挨拶をする
- *常に保育士室はきれいに保ち、整理整頓を徹底する
- *ホームの連携を強化する。特に引き継ぎを大事にする（業務に責任を持つ）
- *ホームは一つのチームとして全員で協力して働いていることを意識する（常に報連相を重要に考える。孤立して仕事をしない。話し合いを切らさない）

◆ 進路指導・児童指導

- *将来の夢を持たせること（できるだけイメージさせる）
- *自分で考える力をつけてあげる
- *親を乗り越えて、自分の将来を意識し自立させる。親への執着をなくす

◆ 業務のあり方

- *勤務内に職員同士が連携して、効率的に業務ができるように工夫する
- *行事の準備は、予め落ちがないように段取りを組んでスムーズに行う

◆ 自己成長

- *常に自分の人間力を磨き、良い部分は伸ばし、悪い部分は更に意識して逃げずに変える努力をする（指摘を受けやすい人になること）

29年度まごころ・そよかぜホーム長方針 まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年度もホーム長をやらせて頂くことになりました。28年度は子ども達の生活も落ち着き、特に中高生に関しては自分のやらなくてはいけない事が、少しずつ明確になってきている分、目標を持って生活が送れるようになってきました。その反面、小学生はまだまだ生活の中で目標が明確になっていない為、今以上に手を入れていき、中高生と同じように目標に向かって生活を送れるようにしていきたいと思っています。

そのためには、職員が同じ考えを持ち、子どもの養育にあたっていかななくてはいけないので、いくつ目標を立てたいと思います。

◇ 職員間の連携について

- ・職員間の会話を増やし、常に情報交換ができる場を作る。
- ・引き継ぎを今まで以上に抜けのないように行い、情報を共有できるようにする。
- ・二重、三重指導に力を入れる。

◇ 職員の育成

今年度のまごころ・そよかぜホーム職員は1年目、2年目が中心となります。その為、経験も浅く、仕事の中でわからない事も多いと思いますが、なんでも私がやってしまうのではなく、職員もまず挑戦してもらい、経験を積んで貰えるようにしていきたい



と思います。その上で、何をどうすればよいのかなど教えていながら、一人でも多くの職員が力を付けられるようにしていきたいと思っています。

新年度を迎えるにあたり、毎年さまざまな目標を立てていますが、いつも職員との連携について年度末に一年を振り返ると、1年間あまり変化が見られないのが現状です。

今年度は一年後職員が変わったと感じられるように、私も今まで以上に本気で仕事に向き合っていきたいと思っています。

調理方針

調理主任 伊藤 慈子

新年度がスタートして、1ヶ月が経ちました。今年度も引き続き、調理主任を務めさせていただきます、よろしくお願い致します。早いもので、もう3年目になります。

今年度の調理は、昨年中に2名の嘱託調理員と、午後のみのパート調理員1名に入っていただき、また今年の4月から新任調理員1名を迎え、合わせて7名で活動していくことになりました。園の中では、一番の大所帯になりました。大勢いると安心して仕事が出来ますが、それに甘えるのではなく、経験豊富な知識と新しい意見を上手に組み合わせ、子供たちのために何が出来るかを考え、常に話し合い、ホーム職員に協力し、活動していきたいと思っています。

そのためには、どんな人との勤務でも、どんなメニューでも、安心安全な仕事をしていくために、お互い声を掛け合い、確認し合い、助け合い、協力し合って、思いやりのある仕事を心掛け、よいチームワークを築いていきたいと思っています。

また今年度は、子供たちとの調理実習をする機会を増やしていこうと考えています。食材を切ったり、加熱したり、出来上がっていく様子を見たり…などの経験を通して、少しでも料理に慣れ親しんでもらい、将来自炊できるようになるために、これが少しでも自立の一環としての取り組みになればと思っています。

私達調理は、いつも笑顔と明るさを忘れず、陰ながら子供たちに接し見守り、子供たちの『おいしかったよ』の言葉を励みに、日々目標をもって頑張っている子供たちの心と体の成長のために、みんな協力し、おいしくて栄養のある食事とおやつを作っていきます。

今年度、調理は7名で頑張っていきます。よろしくお願い致します。

庶務方針 庶務・会計 石黒 玄章

昨年の8月より重責な職務を預かり、9ヶ月の月日が経ちました。引継ぎが不十分な中で任を預かりましたが、多くの人の支えで、お陰さまで無事に新年度を迎えることが出来ました。

職を預かる中で気付いた事が有ります。解らないことを解らないと訊ねれば、皆さんが本当に親切丁寧に回答してくれました。そのため新しい分野のことも、確実に多くの事を確実に知ることができました。当たり前の事かもしれませんが、まず其処を実感した次第です。ご協力頂いた方には衷心より感謝申し上げます。

昨年度から、高橋先生と共に職を務めていただき、鶴沢会計事務所さまがプロの目で経理を見ていただくことになりました。運営面でも非常に安心していただける次第です。今後は先ず一年を無事に勤め、そこから更に広がる柔軟な職務を勤めたいと思います。その為にも残り3ヶ月気を引き締めて行きたいと思います。現在もそうですが、「直ぐにやる。確実にやる」をモットーに今年度も協力して、園の子ども達に不自由がない様に勤めて参ります。

新年度抱負 あおぞら副ホーム長 富沢正樹

私自身、7年目を迎える新年度。今年度の抱負は？と考えた時、パッと思い浮かんだ事があります。「明るく働く」という事です。この仕事は、子ども達に自立の力をつけていく事が何においても大切だと思います。そして、そのためには、子ども達自身が夢や目標を見つけられる事が必要不可欠なのだと、園長先生の方針や、この6年間、副園長の青谷先生、主任保育士の石崎先生の子供達への関わり方から学びました。

そして、昨年度、更に痛感した事がありました。それが「明るさ」です。自分が、将来の夢や、そのための目標を子どもと話し合っても、どうしても上手くいかない。それが、昨年度の私の一年間でした。何故なのか？青谷先生や石崎先生の子供達との会話や雰囲気を見ていて良く分かりました。先生方も子どももお互いにとっても明るいのです。前向きな話は、明るさの中にしか生まれないのだと分かりました。明るい雰囲気の中で、何気なく出た話題から、子ども自身が目指すべき方向性を見出して、そこから具体的な夢や目標が生まれてくる。そんな様子を間近で見ている、自分にまず足りないのは「これだ！」と思いました。

青谷先生は再三言います。「まず会話」と。

明るくないと会話は弾みません。明るくないと子どもの良い所を見つけられません。「まず会話」が自分の中で苦しかった時期もありました。暗かったからなのだと思います。今でも会話が弾まない時があります。ですが、自分の心が明るくないのだと省みる事は出来るようになりました。

今年度は、この気付きを大切にして、一年間に過ごしていきたいと思っています。

あおぞらホームが明るさでいっぱいになるようにホームの先生方と協力していきたいです。よろしくをお願いします。

新年度の抱負 あおぞらホーム 佐々木 弘観

愛育園で勤めさせていただき、早くも3年目を迎えました。昨年度、行事を通して、子ども達と同じ時間・空間を過ごし、一緒に挑戦していくことで多くのことを学ばせていただきました。昨年度の当初はこうやらなきゃいけない。こうしたい。という自分の思いばかりが先行し子ども達に上手く伝わらなかったり、反対に子どもの様子をキャッチできなかったりすることが多々ありました。ですが、結果ばかりを追うのではなく、その過程に重きをおいて、子ども達と一緒にやって行く事で経験を共有し、そのお陰でたくさんの思い出を作ることができました。今年度も子ども達が最高の思い出を作れるよう、関わっていきたく思います。

未だ分からない事が多くあり、自分ひとりではどうにもできない事も沢山あります。まずは、相談しながら、そして挑戦していきながら成長できる1年にしていきたいと思っております。



Figure 1 当園の児童（7番）がラグビー部で頑張っています。子どもたちが応援に行きました。
新年度の抱負 まごころ・そよかぜホーム 渡邊 梓

愛育園で働き始めて、早くも一年が過ぎました。何もかも初めての一年でしたので、本当にあつ

<http://enpukui-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

という間に過ぎてしまったように感じます。しかし、この一年間で学んだことはたくさんあります。真剣に日課に行事に取り組む子ども達の姿や、それに負けない職員の熱意に、自分の弱さを感じ、成長すべき点が見えた一年でした。

この仕事は、関わる人といかに信頼関係を築けるかが重要だと、身を持って感じました。信頼できる人はどんな人か考えた時、約束・時間を守る人、真剣に取り組む裏表がない人だと考えました。一年間を通して様々な提出物がありましたが、提出がギリギリになってしまったことが何度もあります。そうなることで、周りに迷惑を掛けたり、心に余裕がなかったなど後悔したことも少なくありません。時間を守るだけでなく、時間に余裕を持って行動したいと思います。また、愛育園の行事を通して、真剣に取り組むということは、とても気持ちがいいということに改めて気が付きました。一生懸命にやった方が達成感は大きくなりますし、準備や練習も前向きになれるように感じます。平成 29 年度は、時間と心に余裕を持って、どんな事にも真剣に取り組んでいきたいと思いません。一年間宜しく願います。

『新年度抱負』

まごころ・そよかぜホーム 竹内早季

愛育園の職員になって、あっという間に1年間が経ちました。この1年間とはにかく日々の業務に慣れ、大きな行事についていくことで必死でした。子ども達とも日々関わっていく中で楽しいこともたくさんありましたが、その一方でたくさん衝突し、その度に話し合いを重ね、ようやく子どもとの関係が作れてきたかと思ったらまだまだ・・・ということが多々あり、1年経ってやっと職員としてのスタートを切れるところに来たのではないかと思います。

これまで子ども達に対して、「こうしないとイケない。」「こうなってほしい。」という気持ちが強すぎるあまりつい目の前の出来事や言動だけを見て善悪を判断してしまい、その結果お互いの気持ちが上手く伝わらないことが何度もありました。頭では子どものこれまでの背景や気持ちを理解しなければならぬと分かっているにもかかわらず、まだまだ咄嗟にそこを理解した関わりができずにいます。抱負を書いている最近でも関係が出来ていない中で私の独り善がりな思いを子どもに伝えた結果うまく伝わらず、1年経っただけではまだまだ子どもことを全然理解できていないことを痛感しました。少しでも何とか伝わると思っていたことが恥ずかしくなりました。私に対して真剣に指摘をしてくださるホーム長始めとした先生方の話をまず素直に受け止め、少しずつでも改善して子どものために動ける保育士になっていきたいと思いません。

新年度抱負

まごころ・そよかぜホーム 加藤ゆかり

早いもので、愛育園に勤めさせて頂いて1年が経ち、2年目に入りました。月日の流れと、自分の成長が伴っているのか、正直不安なところもありますが、周りの先生方のサポートのおかげでここまで来れました。

私の今年度の目標は、①子ども達や職員との会話を増やす、②“報・連・相”の徹底、③謙虚な気持ちで業務に当たる、という3つを掲げました。まず、1つ目ですが、1年間勤めさせて頂きまし

(平成 29 年 5 月 10 日発行 月刊「円福」490 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

たが、子ども達との信頼関係も、職員との信頼関係も、まだまだ築けていないな、と思い、掲げました。信頼関係をもっと築くためにもたくさん会話をしたいと思いません。次に、2つ目ですが、“報・連・相”は社会人としてとても大切なことだと思います。しかし、昨年度を振り返りますと、十分に行えていなかったように感じます。自分1人で仕事をしている訳ではありませんし、まだまだ先生方のお力を借りなければ出来ないことばかりなので、当たり前前を当たり前前に出来るようにしていきたいと思いません。そして、3つ目ですが、あっという間に2年目に入りましたが、最初にも述べたように、月日の流れと、自分の成長が全然伴っていないように感じます。周りの先生方のサポートやご指導があってこそ今の私なので、1年目の初心や、自分はまだまだ力不足であることを忘れず、「自分は出来る！」と勘違いしないよう、謙虚な気持ちで業務に当たりたいと思いません。まだまだ未熟ですが、今年1年間、精一杯頑張ります。よろしく願います！

新年度の抱負

栄養士兼調理員 原 未華

愛育園に勤めさせて頂いて、今年度で3年目になります。調理も新しい体制になり、ますます身が引き締まります。

去年の自分の仕事姿は心と時間に余裕がなく、ただ時間に追われて焦って仕事をする事が多かったです。特に調理の先生方には迷惑かけてばかりでした。時間を有効に使えていない、周りが見えていない仕事は何の意味もないことを改めて実感しました。変に遠慮して、願う事が出来ず、最終的には焦りと不安な気持ちばかりが先走り効率の良い仕事とはいえませんでした。

また、調理の先生方に甘えてしまう事が多かったので、頼りすぎや任せすぎではなく願う事は願う、自分が出来る事は継続していくというようなメリハリがある仕事をしていきたいと思っています。出来る事は必ずあるので、見つけては1つ1つ取り組んでいく意識を持ち続けたいです。

愛育園で働いていると、1日過ぎていくのが本当に早いです。1日の業務の中で、栄養士業務と調理に入る時間を決め、計画性を持って何事でもそうですが、後回しにするのではなく、「先に先に」を心掛けていきたいです。先々のことを考えて、先を読んで仕事を早くしていきたいです。

日々の感謝の気持ちを忘れず、調理全員で子どもたちの食事をさらに楽しくするためにも献立や手作りおやつなど全員で考えて、よりいっそう心温まる食事を提供したいです。

今まで以上に初心の心を忘れずに1日1日を大切に支えていただいた分以上に自分自身が支えになれる存在になりたいです。

今年度も、よろしく願います。

高校生になって

高 1 R.M

僕は篠ノ井高校に入学しました。

高校でやりたいと思っている事があります。それは野球部に入って活動する事です。

僕は、野球部に入ろうと昨年七月から決めていました。中学でも野球をやっていましたが、引退

<http://enpukui-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

してから、高校でも野球をやろうか悩んでいましたが、高校野球をやっていた園の先輩の姿を見て、「自分も高校野球の舞台でグラウンドに立ちたい！」と思うようになりました。

すでに野球部に入り、練習に参加していますが、中学校の頃とは全然違います。練習量が多いし、園に帰ってくる時間も遅くなってしまっています。毎日、ヘトヘトですが、でも、充実している事を感じています。

僕はレギュラーになれるよう、学校での練習はもちろん、帰ってきて素振りをしたりと技術を磨き、日常生活で心を磨き、自分たちの代で、甲子園出場ができるように3年間頑張ります。

高校に入学して

高1 S.A

僕は、更級農業高等学校に入学して、新しい環境で生活できるか、友達を作る事ができるか心配でした。でも、2日後にはすぐ他の中学校の人に話しかけて、友達を作る事が出来ました。

委員会を決めるとき、僕はルーム長に立候補しました。友達からも後押しをされ、僕が選ばれました。ルーム長になり、僕を信用してくれる人がいて嬉しく思いました。

高校生活が新しく始まり、辛い事もあるかもしれないけど、クラスの友達と支えあいながら頑張っていきたいと思います。

こうして高校に入学できたのも、愛育園の先生のおかげだと思います。先生たちの期待を裏切らないように頑張っていきたいです。

高校で頑張りたい事

私が高校で頑張りたいことは、部活、勉強、生活です。部活は中学校でやらなかった分人一倍動いて取り組み友達や先輩たちと励まし合い、嬉しい時には一緒に喜び合えるような良い関係を築けるようにしたいと思います。また部活ばかりではなく、高校卒業後の自分の進路の為にも勉強を疎かには出来ないののでどんなに忙しかったり疲れていても勉強を短い時間で集中してやる。またそれを継続させたいです。

そして最後に生活。正直書くと最近の私は生活面で良いとは言えません。というのも帰りが遅く時間のない中で私の行動が遅かったり、園内の人間関係がうまくいかなかったり、自分の不安や恐怖心と向き合えなかったり。そして自分の事ばかりを考え周囲を気にしない私は自分勝手に自己中心的になっています。そんなダメな自分がたくさんいる私は高校でまたこの作文を書いたことを期に変わりたいと思います。全部を急に変えることはできないけれど、少しずつ変えられるところから変えて、気持ちを強く持てるように頑張りたいと思います。もちろん生活面で頑張ることはこれだけではありません。当たり前な事を当たり前にする事とか、できない事があっても、出来ないなりに集中して全て全力で取り組むとか、そういった事も含めて、これからの高校生活は自分を成長させるためにも3つを中心に頑張っていきたいです。(高1 A.R)

中学生になって

中1 N.M

僕は、4月から中学生になりました。中学生になれてとても嬉しい気持ちでいます。

(平成29年5月10日発行 月刊「円福」490号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

僕が、中学校で頑張りたい事は部活動です。僕は野球部に入ろうと思っています。野球部は練習がきつかったり、辛かったりすると聞きました。けれど、僕は将来プロ野球選手になりたいので、夢を叶えるために野球部に入って頑張りたいです。

僕の苦手な事は、怒られたりした時に素直に聞けない事です。野球でも、エラーをするとすぐ拗ねてしまいます。なので中学校に通っている間に、どうすれば良かったのかを考えられる人になって、同じ失敗を繰り返さないようにしていきたいです。

そして、「新しい事にチャレンジする」を目標に中学校生活を頑張っていきたいです。

中学校に入学して

中1 K.T

僕には中学校に入学して頑張りたいことが2つあります。

一つ目は3年間休まず学校に行き、皆勤賞をとることです。

二つ目は、小学校よりも勉強がむずかしくなるけど、高校に入学できるように頑張っていきたいです。

中学に入学しての目標

今年の4月に私は篠ノ井東中学校に入学しました。「中学校ってどんな所かな？」や「上下関係は厳しいのかな？」など不安を持っていました。そんな私には目標があります。それは「あいさつ」を積極的にすること、そして毎日しっかり授業を受けることです。授業をしっかり受けるという目標は3年後受験があるからです。私は1回経験し落ちてしまった悔しさ、悲しみがまだ心に残っています。それは授業を聞いていなかったり、まじめに受けていなかったからだと思っています。この悔しさを忘れずこの東中3年間しっかり授業を聞いて勉強をしっかりして、3年生になって焦らないようにしたいと思います。

『小学校に入学して』

ひらがなをがんばりたいです。4がつ6にちにゆうがくをしました。ぱぱがきましたどきどきしました。たのしかたです。こくごをがんばりたいです。しょうがごうになったときはづかしくてMちゃんといたとき、なかなかたとき、ないたときもあたけどきのうときやうわなかなかたです。たのしかたです。もろずみせんせいがたいすきです。おともだちもだいすきです。ぱぱもままもだいすきだよ。せんせいたちもたいすきです。

少年野球チームへの願い

副園長 青谷 幸治

4月29日、円福寺愛育園少年少女野球団を発足することができました。昨年からはまった円福杯球技大会を機に支援者である日詰氏の後押しもあり、在園児8名、外部児童2名の計10名でチームを発足することができました。



近年、少年野球チームが減少する中で新チームができることは話題性もあります。しかし一時の話題性だけでなく、円福寺愛育園が少年野球大会を通じて特色あるチームであることを広げてきたいと思っています。



「負けても勝つ」これは矛盾した言葉ではありますが、勝負には負けても心では相手に負けていない。マナーや挨拶、道具の管理、ユニホームの着こなしなど試合以外のところで絶対に負けない。こんな気持ちを忘れず取り組む中で素晴らしいチームを作り上げていければと願っています。日誌氏を中心に「円福寺愛育園」の名に恥じぬよう、そして誇りをもって戦っていきたいと思います。応援よろしくお願いします。

愛育園職員になって

近藤 誠志郎

今年度から愛育園の職員となりました、近藤誠志郎です。よろしくお願いします。

愛育園で働き始めてから、気がつけばもう1ヵ月が過ぎようとしています。今日まで働いて、どのようにしたら子供たちと良い関わり方ができるのか、良い関係を築くことができるのか、そのようなことを考える毎日です。ただ、子供たちに呼びかけや注意をしようとしても、自信のなさからハッキリと言葉にできないことが多いのが現状です。自信を持って子供たちと接するためには、先輩職員の方々の言動をよく見て、多くのことを学び、私自身が成長することが大切だと思っています。そのためにも失敗を恐れず、積極的に行動するとともに、常にどのようなことから学ぶ姿勢で生活していきたいです。愛育園で、1ヵ月勤めさせていただき、多くの子供たちの笑顔を見ることができました。子供たちの笑顔を見ていると、私自身も笑顔になり、「もっとこの笑顔を見ていきたい」と思います。これから先も、子供たちと真剣に向き合い、他の職員の方々と協力して、この笑顔溢れる愛育園に携わっていきたいです。

愛育園職員になって

まごころ・そよかぜホーム 船戸映見

愛育園の職員なり、早一ヵ月が過ぎました。3月中旬から研修が始まり、4月1日からは「お姉さん」ではなく、「先生」と呼ばれる日々です。

職員になりまず一番に、とされていることは、社会人として必要不可欠である「報・連・相」を徹底する事です。自分で勝手に解釈・判断するのではなく、何事も先生方と共有する大切さをこの一ヵ月学びました。私が勝手に判断し、報連相を徹底しないことが続いていくと、最終的には子ども達の成長や、将来の芽を摘み取ってしまう可能性がある、と改めて気付かされました。

次に、毎日の日課に一日でも早く慣れる事です。日課に早く慣れることで、例えば、「子どもが体調を崩した」際や、「病院に行く必要がある」場合など、いつもと異なる動きになった際に、多くの事を想定して、次の事を考える余裕ができる、と考えています。そのために、確実にできるまで必死に毎日を過ごして参ります。

最後に、今年の抱負として、「笑顔で、元気に、明るく、はきはきと」をモットーに進めて行こうと思います。これからよろしくお願い致します。

愛育園の職員になって

調理員 橋本 雅

昨年度3月に山梨学院短期大学を卒業し、今年度4月から調理員として勤務させていただいております橋本雅です。

3月末の研修から勤務させていただき1ヶ月が経ちました。仕事内容や子供たち、先生方の名前を覚えるので必死であつと言う間の1ヶ月でした。

この1ヶ月勤務させて頂き子供たちの元気な姿や先生方がとてもいきいき働く姿を感じています。調理員としておいしい食事を作り子供たちに喜んでもらえるようにがんばります。教えて頂いたことを、しっかりこなし一日も早く先生方に近づけるようにひび努力していきたいと思っています。

愛育園では、様々な行事がありいまから凄く楽しみにしています。

まだまだ、分からない事だらけですがご指導の程よろしくお願いします。

